

ひだまり

今回は新成医会 理事長より緩和ケアに対する思いを綴って頂きました。
アクティビティクラブは園芸・タクティールの紹介です

自分が自分でなくなること

新成医会 理事長 渡邊毅

もう話題になってから何年も経ってしまいましたが、『明日の記憶』という映画をご存じでしょうか。新潟出身の渡辺謙と樋口可南子が主演した、たいへんに見ごたえのある映画でした。

バリバリの営業マンであった主人公(渡辺謙)がアルツハイマー病になり、次第に進行する症状を中々自認することができず、その葛藤が家族を巻き込んでいき…という、考えさせられることの沢山ある、いい映画でした。

完全に意志の疎通ができなくなってしまった主人公に奥さん(樋口可南子)が寄り添って、夕日を見つめているラストシーンが強く印象に残っています。

癌や心筋梗塞という致命率の高い病気を罹患することとはまた別種の、自分が自分でなくなっていくことの苦悩…は認知症に特有のものだと思います。周囲が自分を認知症と見做すことへの反発、しかし同時に自己の行動が明らかに制御不能となり、記憶が欠損していくことへの困惑、それらは同時にご家族への心理的圧迫となり、生活のあり様にも深刻な影響を与えていく。

現在、認知症に関しては有効な治療法が開発されるに至っておりません。ただその初期の段階から、医療、ケア、リハビリ、ご家族の接し方、等々が有機的に機能し合ってご本人を支えることができれば、病態の進行を抑え、改善できる可能性があると思います。

私たちが今メインの仕事のひとつとして取り組んでいる認知症は、老人退行性疾患の時代である現代でも、社会の最も深刻な問題のひとつです。そしてまだ、標準化された対処法、治療法は確立しておりません。自分が自分でなくなっていく困惑…に、どうしたら初期の段階から向き合っていただくことができるのか、その時我々は各セクションでどう対応し、どう連携し合って症状の改善に取り組むか、各々のケースが個別であると同時に、少子高齢化社会に於ける普遍的な問題です。

認知症というこの困難なテーマに、私たちはこれからも試行錯誤しながら全力で取り組んでいきたいと思っています。

みどりの森

管理部 管理課職員

にいがた「緑」百年物語をご存じですか！？
取り組みの一環として、この度、緑の募金の一部が当院にも助成されることとなり、「みどりの森」を創ることになりました。先日、植樹祭が行われました。



園芸クラブ

リハビリテーション科職員

園芸クラブでは季節にあった花を植えたり、野菜の苗植え・収穫をスタッフと入院患者様で楽しく行っています。私はリハビリテーション科の職員ですので、リハビリの一環として参加できる患者様と活動させてもらうことが多くあります。もともと園芸が趣味であったり、畑仕事をされていた方が大勢いて、畑の前に立つと自然と体が動いて笑顔になる方が多くいます。普段病院の中で行っているリハビリとは違い、青空の下で多くの人と触れ合いながら行う活動です。人と人との関わりの中で感じ取れる達成感や一体感がとても貴重な時間だといつも感じていきます

タクティールケア

外来看護職員

- ① タクティールケアとは？
ラテン語のタクテリス「触れる」という意味からきています。一定のリズムと手技で優しく触れるケアです。安心感や穏やかな信頼関係が持てることを目的に行っています。
- ② 活動内容
現在26名のスタッフで病棟4グループと外来チームを組み、病棟チームは月4回入院患者様の病床で赤いエプロンをつけケアを行っています。(認知症の方が一番認識できる色と言われていています。)
- ③ 外来では毎週(金)13時30分～15時のタクティールケアを行っています。癒されたい方はどなたでも受け付けに予約されてぜひ体験してみてください。
- ④ タクティールケアを行うことの最大のメリットはケアを受ける側も行う側もオキシトシンというホルモンの分泌を促しお互いに穏やかで優しい時間を共有できることだと思います。ぜひ皆さんも癒しを体験されてみてください。お待ちしております。